広島大学附属三原学校園研究紀要　第３集　2013　pp. 99-104

音　楽　科

感受から表現の工夫，そして歌唱表現へとつながる授業づくり

—歌唱曲「Let's search for tomorrow」を通して—

向　井　さ　ゆ　り

１　はじめに

学習指導要領の改訂から２年が経過しようとしている。音楽科で新設された〔共通事項〕も，授業の中で整理しつつ指導の柱となったり基礎的な知識として題材を貫いたりする役割が定着しつつある。

その中で，子どもが初めての曲に出会い，その曲の雰囲気をおおまかに感じとり「○○○な感じの曲」ととらえること（感受）はできるが，そのように感じるのは曲のどこからなのか，なぜそう感じるのかという音楽的な要素を根拠にしたものまでには至っていないことが多い。言い換えれば，音楽的な要素を整理された〔共通事項〕が，子どもたちには学習の道具として定着するまでには至っていないのではないかと考える。

また，筆者がこれまでの授業をふり返ってみると，指導者の解釈による表現の工夫を子どもたちに教え，表現技能を習得させる，という教師主導の授業を行うことが多い。このことから，音楽科の授業において何を思考・判断させるのか，またそれらと技能の習得との関連をどのように図っていくとよいのかという課題を感じていた。そうした中，中教審答申において「感性を高め，思考・判断し，表現する一連のプロセスを働かせる力の育成」「音楽を表現する技能と鑑賞する能力の育成においては，音や音楽を知覚し，感性を働かせて感じ取ることを重視すること」[1] と音楽科の課題が示された。それを受けて，学習指導要領音楽編の音楽科改定の趣旨（ｉ）改定の基本方針では，「音楽のよさや楽しさを感じるとともに，思いや意図をもって表現したり味わって聴いたりする力を育成すること」「表現と鑑賞の支えとなる指導内容を〔共通事項〕として示し，音や音楽を知覚し，そのよさや特質を感じ取り，思考・判断する力の育成を一層重視する」[2] と述べられている。また第５学年及び第６学年のＡ表現（１）イでは，「歌詞の内容や，曲想を生かした表現を工夫し，思いや意図をもって歌うこと」[3] と示されている。これらのことから，子どもたちが，音楽に対して興味・関心をもち，知覚・感受したことを思いや意図をもって表現できるようにしていく指導が，今求められていると考えた。

２　研究の構想

(1) 感受から表現の工夫へつなげるために

表現の工夫を音楽的な要素を根拠に考え，それを実際に表現できるようになることが思いや意図をもった表現技能の習得となると考える。そのために，まず，曲全体から受ける雰囲気，部分的なところから受ける雰囲気など，曲から感じ取ったもの（感受）を大事にし，感受したことを楽譜や歌詞に照らし合わせ，その根拠を音楽的な要素に求めていけるようにしていく。そこから，「このように歌ってみるとどうだろう。」という表現の工夫へとつながるようにしていく。本研究では特に，楽譜に表記されている強弱記号と繰り返される旋律や歌詞とのかかわり合いに着目させ，それらを生かした表現の工夫が考えられるようにする。

(2) 考えた工夫を歌唱表現へつなげるために

考えた表現の工夫が思いや意図をもった歌唱表現できるようにするために，自分たちの歌唱を録音し再生して聴く活動を取り入れる。歌ってすぐ

の歌声を聴くことで，情意面（意欲的に取り組めているか）と実際の歌声のかかわりに気づいたり，客観的に自分たちの歌声を聴くことで，イメージしている歌声と比較したりすることができる。そのため，改善点が分かりやすくなると考える。また，録音を残していくことで，前回の歌声，または，最初の頃の歌声と比較して聴くことができる。改善を重ねていくことで，考えた工夫を生かした表現ができるようになると考える。

3　実践例

(1) 題材

「曲想を感じて」

(2) 授業実施学年及び人数

第５学年，38名

(3) 実施時期

平成24年11月～12月

(4) 題材について

本題材では，歌詞の内容や曲想を生かして表現を工夫し，思いや意図をもって歌うことができるようになることをねらいとしている。そのために，範唱や歌詞の朗読を通して曲に対するイメージをもたせる。そのイメージと音楽とを結びつけるために，楽譜に記された演奏記号に着目させ，記号の意図するところを音楽の要素や仕組みを手がかりに考えさせる。この学びの過程が表現の工夫を考える活動であり，表現を豊かにする方法を習得できる活動と考える。また，考えた工夫をもとに，思いや意図をもった歌い方ができるようになることで，より豊かな表現になったり，歌うことの楽しさを味わったりすることができると考える。そこで，教材曲「Let's search for tomorrow」を取り上げる。この曲は，曲想の変化が感じ取りやすく旋律の繰り返しと強弱記号の関係も楽譜から読み取ることができ，曲想の変化による表現の工夫を考えるのに適していると考える。

(5) 目標

○　曲想を生かして表現を工夫する学習に意欲的に取り組むことができるようにする。

○　曲想の変化や歌詞の内容を感じ取りながら，発声や強弱を工夫して歌うことができるようにする。

○　互いの歌声や自分たちの歌声を聴きながら，思いや意図をもって歌うことができるようにする。

(6) 学習計画

第１次　曲想を感じ取って表現の工夫を考えよう。

第２次　考えた表現の工夫を生かして歌おう。

(7) 授業の実際

〈第１次：曲想を感じ取って表現の工夫を考えよう〉

１時間目

「Let's search for tomorrow」の範唱ＣＤを初めて聴き，歌詞カードに曲全体を通して感じたことや，範唱でどのように歌われているか，について書いていった。

図１　歌詞カードに感じたことや気づいたことを書いている様子

[redacted]

図２　感じたことや思ったことを記入した歌詞カード

初めて聴いた曲に対して子どもたちは次のような感想をもった。

・出だしが静か，暗い。
・後になるにつれて音が大きく明るくなっていく。
・声が高い。
・ゆっくりした感じ。
・「レッツ　サーチ　フォー　トゥモロウ」が多い。
・全体的に明るい。（長調）
・曲の感じが変わるところがある。

子どもたちの感想からは，音楽的な要素を言葉で表現はしていないが，曲想をとらえる手がかりになる感じ取り方（感受）はできていた。

2時間目

前時に感じたことは，どこからきているのか，そして，そこは楽譜にどう書かれているのか，という音楽的な要素に着目した学習を行った。

まず，この曲を作詞・作曲した人がいること，その人たちが，みんなにどのように歌ってほしいと思っているかについて考えてみた。そして，作詞・作曲者の思いは，楽譜の中に表されているので，楽譜の中から作詞・作曲者の意図を汲んでいくことにした。そこで，楽譜の中に書かれていることを挙げていった。

・音符・休符	・リピート記号
・強弱記号	・歌詞
・拍子記号	・速さ
・スラー	・スタッカート

この中で，「歌い方に直接かかわってくるものは？」の問いかけに対し，多くの子どもが強弱記号を挙げた。そこで，強弱記号を手がかりに歌い方の工夫を考えていくこととした。

前時に「静かで暗い」と感じた出だしの部分は，楽譜では【mp】の記号が使われていた。また，何度も繰り返される「レッツ　サーチ　フォー　トゥモロウ」は，だんだん強く歌っていくように強弱記号が設定されていた。しかし，範唱ＣＤを聴いた時にはこの変化に気づかなかった。楽譜を見て初めて知ることができた。ではなぜ，作曲者はこの部分にだんだん強くなっていくように強弱記号を設定したのかを考えてみた。

・最後の部分だから，盛り上がっていくためにだんだん強くなっていくようにしてあるんだと思います。
・曲の題名だから，たくさん繰り返されているんだと思います。
・曲を作った人は，「レッツ　サーチ　フォー　トゥモロウ」という言葉をみんなに伝えたいんだと思います。
・強調したい部分だから，同じ言葉でもだんだん強くしていっているのだと思います。

子どもたちも，作曲者の意図を考えながら，また強弱記号がだんだん強くなっていくよさを考えていくことができた。

強弱記号と旋律・歌詞のかかわり合いを曲の最後の部分で考えていくことができたので，同じように強弱記号と旋律・歌詞がかかわっているところはないか考えていった。

〈冒頭８小節の繰り返しについて〉

Ｐ：曲の出だしだから【mp】になっているんだと思います。じゃないと，盛り上がりが盛り上がらないからです。
Ｐ：詩でも，同じ言葉が繰り返される時は，詩を作った人がその言葉を強調したいからなので，この曲もこの部分をみんなに伝えたい，強調したいと思っているんだと思います。
Ｐ：２回繰り返されるけど，詩を読むんだったら声の大きさを変えるけど，この曲は【mp】だから，そんなに変化しなくてもいいのではないかな。
Ｐ：強調したい部分だからといって，すごく大きく変化する必要はないけど，２回目はほんの少し声を強くした方がいいと思います。
Ｔ：伝えたい言葉である，ということはみんな同じ思いですか。（子どもたち：うなずく）では，繰り返される部分である，ということで，歌い方をどのようにすればこの部分のメッセージが伝わるか，ということについて，もう少し意見を聞かせてください。
Ｐ：１回目は【mp】で，２回目は【mf】で少しだけ声を大きくすればいいと思います。
Ｐ：ここは，曲がこれから始まる，という部分だから，

そんなに大きく変化した歌い方をしなくていいと思います。
P：歌詞をていねいに読む感じで，語りかけるように歌ったらいいと思います。
P：同じで，例えば，「さあ」のところには，のばす記号とスタッカートがあるので，呼びかけるように歌ったらいいと思います。
P：「今こそその時」は，クレッシェンドになっているので，だんだん強くしていって，「さあ」を強く歌って強調していくといいと思います。

冒頭の８小節の歌い方を強弱記号をもとに，歌詞・旋律・強弱記号の音楽的な要素をかかわらせながら考えていくことができた。

３時間目

前時で考えた歌い方を練習しながら試してみて，その後録音をして聴いてみた。聴いた直後に，次の２点が課題として挙げられた。

【課題①】最後の盛り上がりの声が，叫んでいるみたいな人もいて，声がばらばらだし，きれいじゃない。
【課題②】「さあ　たびだとう」のところが，入りにくく，タイミングがずれてしまっている。

課題①について，叫び声のようになっていた声を改善するために，声の出し方を交流していった。「音が高い」と最初の感想で出たように，子どもたちは高い音にやや抵抗を示していた。それから，最後の【ff】の声をどうやったら出すことができるかについて考えていった。ここで，強弱記号と実際の自分たちの歌声をどう一致させるかという技能面に視点が変化していった。

課題②については，これまでに考えていなかった部分ではあったが，実際に歌っている時から子どもたちが難しさを感じていた部分であった。では，なぜうまく歌えないのかを考えていくことにした。

T：この部分（さあ　旅立だとう）で何か気づいたことはありますか。
P：ここは，曲の雰囲気が変わるところだと思います。
P：つけ加えで，暗い感じになるので，短調になっていると思います。
T：初めて聴いた時には，この曲は長調だね，とみんなで確認したけど，今短調ということになってきましたよ。
P：それは，この「さあ　旅立とう」の前までは長調なんだけど，この部分だけ短調になっているんだと思います。
P：ここだけ雰囲気が変わっているのは，短調になっているからだと思います。
T：だから，歌う時にみんなが「あれ，これでいいのかな？」と感じて，うまく歌えなかったんだね。

〈第２次：考えた表現の工夫を生かして歌おう〉

１時間目

自分たちの歌を聴き，考えてきた歌い方で歌えるようにしていった。

〈転調の前までの気づき●，改善策○〉
●聴いてみて，冒頭が語った感じになっていない。
●途中の「さあ」が，呼びかけたようになっていない。
○広い，という言葉のところで本当に広がっているように歌ったらいいのでは。
○旋律線の動きのように，なめらかにやさしい感じで歌ったらいいのでは。
○「さあ」は，明るい未来に向かっている，という感じで，「さ」を強く言う感じで歌ったらいいのでは。

いくつかの改善策が提案されたので，何度か録音再生を繰り返し，イメージしている歌い方ができるようにしていった。

次に，歌いにくかった転調のところから最後の部分までを歌っていった。

〈転調から最後までの気づき●，改善策○〉
●最後の強弱の変化と声がうまく一致していない。
○声の出し方を考える。
○声量【ff~piuf~f】を決める。

声の出し方については，地声にならないように，のどを開けた裏声に近い声（頭声的発声）で，声がこもった感じにならないように響きのある声で歌っていくことになった。この歌い方だと，【ff】の声を出すことができるかどうか不安だったようであるが，この歌い方で最も強い声を【ff】として，そこから声量を下げていき，声の強さの目安

を決めていった。

2時間目

歌唱の仕上げをするために前時の歌い方の振り返りをした。子どもたちから，最後の部分の強弱の変化が前時にできていなかったという気づきが出たので，その部分の練習を全体で行った。技能面で響きのある声にならず，どうしてもかすれた声になってしまう子どももいた。しかし，強弱の変化をつけて歌おうとしており，個々の声量や発声の違いを互いに認めて全員で思いを一つにして仕上げていくということで，解決していった。

最後に，「Let's search for tomorrow」を最初から通して歌っていった。最後の録音を聴いて子どもたちは，「みんなの声が前よりもまとまってきた。」「出だしの音程がよくなった。」「だんだん盛り上げていくところが，うまくなった。」という感想をもった。

4　考察

(1) 表現の工夫を考えるためにについて

表現の工夫を考えていく時に，まず個人で楽譜に，どこをどのように歌っていくかという思いを記入していった。ここでは，そのワークシートの記述から検証を行う。

図３　個人で考えた歌い方の工夫を書き込んだワークシート

ワークシートから強弱記号に○印がしてあることが分かる。そして，盛り上がりにクレッシェンドを書き加えたり，旋律の動きを線でなぞったりしている。このことから，強弱記号が変化している場所が曲全体とどうかかわっているかに着目し，強弱記号の変化の意図を考えていくことができていると考える。また，楽譜の中に言葉で注意書きが記されている。このことから，強弱だけでは表現できない言葉のイメージをどのように歌うとよいかについても考えていくことができたと考える。

(2) 考えた工夫を歌唱表現へつなげるために

次は自分たちの最後の仕上げの合唱を聴いた感想と，題材を通しての振り返りから検証をする。

下の枠内は仕上げの合唱後の子どもの感想である。

- 話しかけて伝えるように歌ったらいい感じになりました。
- 最終的に，やさしく，すきとおった声で歌えたのでよかったです。
- 考えた工夫を生かして歌を歌うのは大変だったけど，この曲の特徴が分かったら，上手に歌えるようになりました。
- 楽譜に記された通りに歌っていくことができた。1時間で，ずいぶん上手になった。
- これまでは，音がずれている人もいたけど，音がずれなくなってきれいに仕上げられた。最後の「レッツ　サーチ」の声がきれいに出ていた。

これらの感想から，この曲の特徴の一つ，曲の冒頭の歌い方について，歌詞と旋律・強弱記号をかかわらせて歌い方の工夫を考えていくことで，「話しかけるような歌い方」の技能の習得につながったことが考えられる。「音程」についての記述もあった。目標には入れていなかったが，歌を歌っていく時に正確な音程で歌うということは，当然必要なことである。この曲は少し難しい曲なので，正確な音程で歌う，ということは，個人個人の中では常に意識していたことがうかがわれる。また，高音域の発声の仕方についても，思いにあった歌い方ができたと感じていることも分かる。

また，次の枠内は本題材が終わってからの子どもの振り返りである。

・盛り上がりの前は静かな感じで歌って，盛り上がりは，【f】で歌うということがわかったので，この特徴を次の曲でも意識して歌うようにしたいと思いました。
・記号の意味などを確認して「ここは○○な工夫をする」ということがたくさんできるようになりました。
・歌詞にどんな意味があるのかを考えることが大切だとわかった。
・強弱とそれにあわせた表現力が大切だと思います。
・何回もくり返しているところは，曲を作った人が一番伝えたいところだから，強弱をつけて歌うといい。
・強弱は，歌詞と関係が深いなと思った。最後の盛り上がりがよかった。
・歌詞の内容がどんなに希望をあたえるようなものであっても，伝わるように歌わないと伝わらないということがわかった。
・同じ所（旋律）がくり返されている場合，２つめの方をより強調すればいいとわかった。
・むやみに声を出しすぎてはいけない。
・長調と短調の区別をつけて，その雰囲気に合うように歌う。

これらの振り返りから，題材を通して，感受したことの根拠を楽譜から探し，そこから表現の工夫を考え，思いや意図をもった表現にまでしていくことのよさや，その過程で何が大切か，ということに気づいていると考える。

5　おわりに

活動後，子どもたちが新しい教材曲に出会ったとき，強弱記号，歌詞が伝えようとしていること，曲の盛り上がりについて楽譜の中から根拠を見つけ，それらをかかわらせて歌おうする態度が見られるようになった。

今回の研究では，感受を表現の工夫につなげ，さらに表現活動につなげる，という指導計画をたて実践をしていった。全５時間のうち，３時間を歌唱表現の工夫を考える時間に使い，残り２時間を表現活動に使っていった。子どもたちの教材曲に対する興味・関心及び，意欲の継続という情意面からいくと，１教材曲で５時間費やすということは，児童の意欲面からいうと今回の指導計画でかろうじて保てたように感じる。このことは，題材を通して，どのような力をつけたいのか，また〔共通事項〕の中のどの音楽的な要素を柱にして学習を展開するのかを明確にし，有効な手だてを考え指導をしていかなければ，様々な要素に着目させすぎて，思考を混乱させ，時間も必要以上にかかってしまうであろう。そして，このことは意欲の低下にもつながるであろう。

また，今回の研究で，これまで子どもたちがどのような音楽的要素の働きについて学んでいるか，実際に表現活動の道具として使いこなせているか，という実態把握をすることと，音楽科の指導内容の系統性を明らかにし整理したカリキュラムの必要性を感じた。

＜引用文献＞

1)　中央教育審議会：「幼稚園，小学校，中学校高等学校及び特別支援学校の学習指導要領の改善について（答申）」，2008.
2)　文部科学省：「小学校学習指導要領解説音楽編」，p. 3，教育芸術社.
3)　前掲書 2)，p. 54.